

(様式7-4)

バルク容器明細書

(貯蔵能力が500kgを超え1,000kg未満のもの)

- 1 液化石油ガス設備工事を行った事業所の名称
- 2 液化石油ガス設備工事に従事した液化石油ガス設備士の氏名等
設備士の氏名：
免状番号：
直近の設備士講習受講年月日
(免状交付を受けてから第1回講習期限に至っておらず、講習を受講していない者にあつては免状交付年月日)
講習受講 免状取得 年 月 日
- 3 設備の所有者又は占有者の氏名又は名称
- 4 設備の所在地
- 5 当該設備の使用目的
- 6 貯蔵設備の貯蔵能力
バルク容器： kg × 基 = kg
- 7 供給設備の技術上の基準に対応する事項
 - イ 容器の設置場所等
屋外の容器置場内(壁で囲まれているもの) 屋外
└ 容器置場の場合の滞留しない措置等：床面に接する換気口を_____方向_____カ所に設置
 - ロ 安全装置(バルク供給・充てん設備告示の基準に適合)
次の機器を設置しており、全て高圧ガス設備試験合格品又は大臣認定品である。 - 別紙のとおり
カップリング用液流出防止装置を取り付けた液取入バルブ
ガス取出バルブ(ガス放出防止器取り付け 緊急遮断装置取り付け)
液取出バルブ 液取出バルブは未設置
└ ガス放出防止器取り付け
緊急遮断装置取り付け
当該液取出バルブは供給管等に接続していないためガス放出防止器又は緊急遮断装置は取り付けしていない
先端にカップリングを取り付けた均圧バルブ 均圧バルブは未設置
液面計(ガラス管液面計を除く)
過充てん防止装置
上記の機器は、ふた付きプロテクターで保護している
- ハ プロテクター内に設けるガス漏れ検知器等
検知器の設置
設置： 常時監視システムと接続している 常時監視システムと接続していない
未設置 _____
└ 検知器を常時監視システムと接続していない又は検知器未設置の場合の周囲の状況
└ バルク容器の外から水平3方向の周囲4m以内に高さ1.5m以上の構築物その他漏えいしたLPガスの拡散をさえぎるものはない(最も近い高さ1.5m以上の構築物等までの距離： m)

(様式7-4)

ニ バルク容器と調整器の間で液状の液化石油ガスが滞留しにくい措置

措置内容： 単段減圧式調整器をプロテクター内に設置
二段減圧式一体型調整器をバルク貯槽の直近に設置
二段減圧式分離型調整器の一次側調整器をプロテクター内に設置

ホ 設置方法等

次の方法により設置している

バルク容器の基礎の高さ：地盤面から c m (法定：地盤面から5 c m以上)

自動車等車両が接触しない措置： 保護柵を設置 縁石を設置 その他()

安全弁の放出管の設置方法

┌ 放出管の開口部の位置、方向：

└ 開口部の雨水侵入防止措置：

安全弁の作動によるLPガスの吹き出しの妨げとならない構造であること。

ヘ 火気等との距離

屋外の火気等の有無

有 無

┌ 火気等の種類：

└ 火気等までの距離： m

┌ 火気等との距離が2 m以上ない場合の隔壁(漏えいしたLPガスが火気の方に流動することをさえぎる措置)

└ 材料：

└ 高さ： m

└ 幅： m

ト 警戒標

表示位置： バルク容器 その他()

表示内容

・液化石油ガス又はLPガス(朱書)： 力所

・火気厳禁(朱書)： 力所

・緊急連絡先： 力所

表示内容：(名称)

(電話番号)

チ バルク容器の腐食防止措置

措置内容：

リ 転落、転倒等防止措置

措置内容：

ヌ 充てん容器等の常に40度以下に保つ措置

措置内容：